JA全農ちば
営農情報集
（10月号）

今月の情報

1. 水稲土壌診断のすすめ
2. 園芸野菜・果樹（梨） 病害虫防除情報
3. 安全な農作物生産の取り組みについて～農薬散布機の洗浄～
4. バラ防除暦（別紙） 天敵を天敵を利用した防除事例紹介

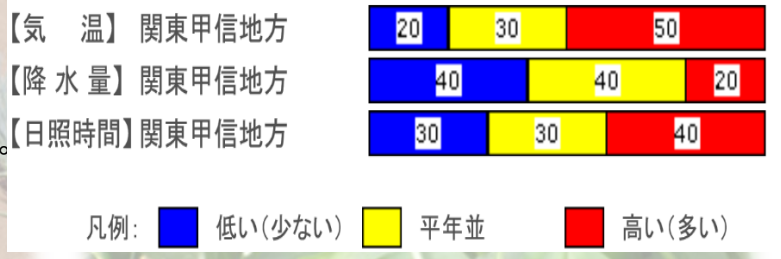
（下記JA全農ちばHP営農情報コーナーで掲載）

１０月の気象について（気象庁 9/24 発表　長期予報（1 か月）から）

1　気温が平年より高い傾向なので施設等では急な高温による焼けに注意。
2　例年台風の発生時期のため施設の補修や補強資材の準備を実施しておきましょう。
3　病害虫が発生しやすい条件のため、早期防除を実施しましょう。

（長期予報（1 か月）は毎週木曜日に発表されます。週予報とともに確認し、今後の栽培管理の計画を立てましょう）

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）>



注意とお願い

農薬登録は掲載時点の内容です。農薬を使用する際には、最新の登録内容をご確認ください。

台風対策

全農では農業施設の台風対策・パイプハウスの建て方動画などを公開しています

アピネスアグリインフォ自然災害対策をご参照（JA 全農ちば営農資材コーナーからもリンク）

HP：<https://www.agri.zennoh.or.jp/N_index.aspx>　または「アピネス」で検索

営農技術情報集のカラー版や、その他の営農情報は**全農ちばＨＰ内営農情報コーナー**にて公開中！

全農ちばＨＰ＜　http://www.cb.zennoh.or.jp/index2.html　＞

営農情報

令和2年１０月

田んぼの土壌診断のすすめ

ＪＡ全農ちば
営農支援部

１．はじめに

近年の異常気象等の対策として、登熟向上が期待できる、ケイ酸および加里の施用が見直されてきています。

ケイ酸と加里はかんがい水のパイプライン化や WCS（ホールクロップサイレージ）の普及、Ｌ型肥料・一発型肥料のみで長年、作付けしていた水田で徐々に不足してきています。

品質を向上するために、土壌診断を行い、圃場の状態を知ることが重要です。

２．千葉県の水田土壌状態の現状について（ケイ酸・加里）

（１）ケイ酸の現状

土壌中のケイ酸目標値は 15 kg/10ａ（全農の土壌診断基準値）であり、2018 年に診断した圃場のうち、約 18%の圃場でケイ酸含量が不足しています。（表１）ケイ酸含量はＣＥＣの小さい砂質土壌では不足しています。（図１）

（２）加里の現状

加里は約 6.5%の圃場では不足しており、約 76%の圃場がが不足予備軍であることがわかります。（表２）加里は土性（ＣＥＣの大小）にかかわらず、不足してきています。（図２）

（３）注意！不足したケイ酸、加里をそのままにしておくと…

２０２０年は「いもち病」や倒伏による減収が広い地域でみられました。ケイ酸の施用により病害への抵抗性や倒伏軽減対策となる他、受光体制が改善されて登熟が向上し、さらに出穂期以降の稲株の温度を下げる効果（クーラー効果）で、白未熟粒の発生を抑制します。

加里は根張りを良くし、根の活性を維持することにより、籾に光合成産物（でんぷん）を行きわたらせ、登熟の向上や粒の肥大に役立ちます。加里が不足すると品質・収量への影響が大きくなります。

表 1. 2018 年　地区別ケイ酸含量分布　（点）

地区別分類	ケイ酸含量（kg/10a））				
	14 以下	15-20	21-25	26 以上	合計
安房、君津	4	7	30	73	114
山武、長生、夷隅	9	26	12	15	11
印旛、市原、千葉	32	49	48	43	172
香取、海匝	56	70	54	15	195
東葛	4	8	23	18	53
総計	105	160	167	164	596

塗りつぶし部分…ケイ酸含量が基準値以下（15 kg/10a）の圃場

※　本資料の無断使用･複写･転載を禁じます　JA全農ちば

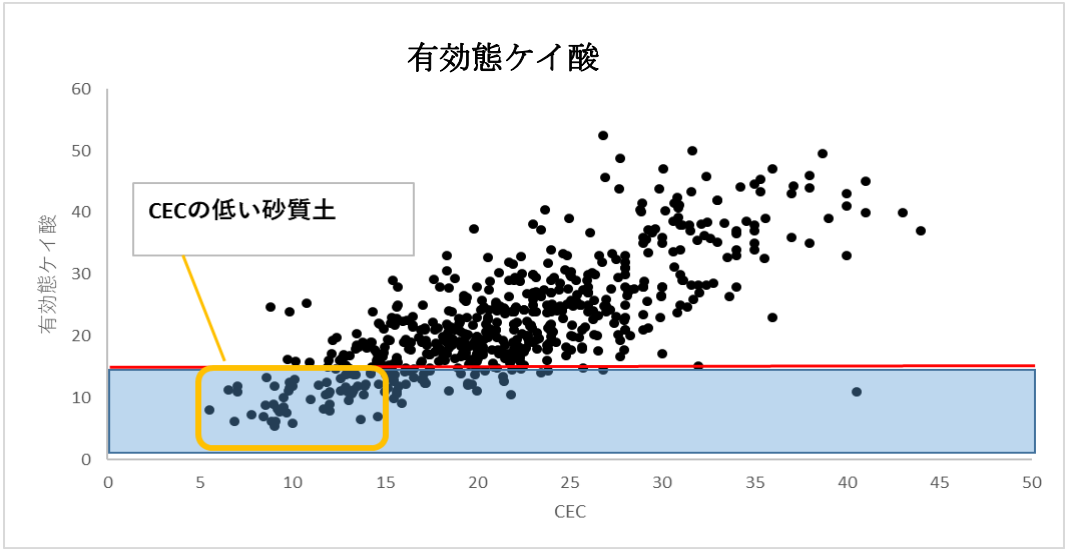


図１．有効態ケイ酸散布図

塗りつぶし範囲…有効態ケイ酸含量 15 kg/10a 未満

表２．2018 年地区別加里含量分布（点）

地区別分類	加里含量(kg/10a)				
	9 以下	10-30	31-50	51 以上	合計
安房、君津	1	88	22	3	114
山武、長生、夷隅		51	10	1	62
印旛、市原、千葉	12	139	18	3	172
香取、海匝	26	141	22	6	195
東葛		38	10	5	53
総計	39	457	82	18	596

塗りつぶし範囲（青）…加里含量が基準値未満（10 kg/10a）

塗りつぶし範囲（緑）…加里含量が少なめの圃場（加里不足予備軍）

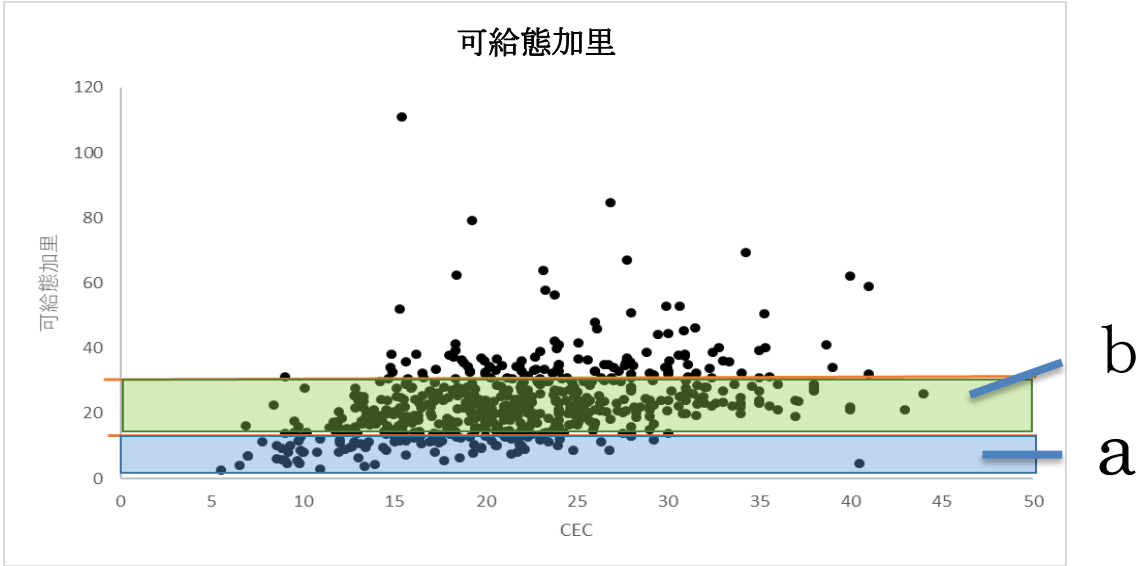


図２．可給態加里散布図

範囲 a …可給態加里含量 10 kg/10a 未満

範囲 b…可給態加里含量 20 kg/10a 以上 30 kg/10a 未満

※　本資料の無断使用・複写・転載を禁じます　JA全農ちば

３．土壌採取と調整の方法

JA 全農ちば（土壌分析センター）では、組合員・農家向けに土壌分析を行っています。
診断は JA 経由でお申し込みいただけます。処方箋を使用する 1 か月前までに申込んでください。以下では、土壌採取の方法を説明します。

土壌採取方法

（１）土壌を採る場所と時期

土壌のサンプルは中央と対角線の 5 か所から採り、合わせて均一にする。収穫後、次作の作業(耕起・施肥)に入る前に採取する。

※1 区画内で部分的に異常が発生した場合は生育が正常な部分と異常な部分とに分けて採取すると良いです。

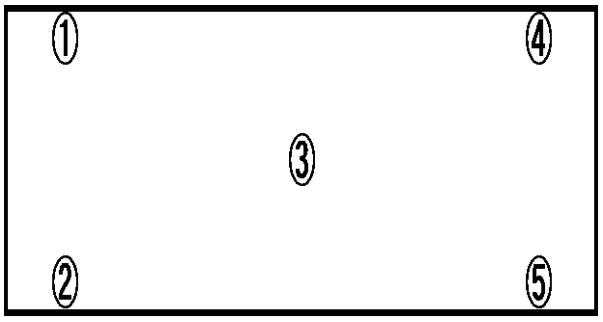


図 1．処方箋採取場所

（２）土の採り方

稲わらを取り除いた後、表土 1,2 ㎝取り除き、作土層を移植ゴテで採ってください。

（３）:採取した土を乾かす

採取した土は新聞紙等の上に薄く広げ、風通しの良いところで乾燥させてください。

（４）サンプルを土壌採取袋に入れる

所定の土壌採取袋（封筒）に必要事項を書き込み、乾かした土を入れる。
かたまりは避け、軽く砕いてください。

４．おわりに

診断結果から作成する処方箋ではそれぞれの土壌養分が数値で示されるとともに、不足している・過剰な養分が一目でわかります。
作成した処方箋をもとに営農指導や施肥提案に活用されてはいかがでしょうか。

作成：古内・森下

※ 本資料の無断使用･複写･転載を禁じます JA全農ちば

営農情報

令和2年１０月

園芸野菜　病害虫防除情報

ＪＡ全農ちば　営農支援部

1. はじめに

８月の高温・乾燥により害虫が増えやすい条件が続いた影響もあり、９月以降施設栽培（トマトなど）でコナジラミ類等の発生が見られております。１０月は暖かく降雨も平年並みの予報が出ていることから、発生の拡大が予想されます。圃場をよく観察し、早期に防除を行いましょう。また台風が発生しやすい時期であるため、気象予報に留意し事前対策を心がけましょう。

2. トマト（コナジラミ類・葉かび病）

（1）コナジラミ類

県内ではオンシツコナジラミ、タバココナジラミが発生します。葉のすす汚れに加え、タバココナジラミはトマト黄化葉巻病（ＴＹＬＣＶ）を媒介する恐れがあります。両種が混在して発生しますが、近年ではオンシツコナジラミの方が多く見られることもあります。また昨年は、一部の地域でトマト黄化葉巻病が多発生していましたので発生には注意しましょう。

薬剤使用時のポイント

ア　コナジラミ類は主に葉裏に寄生しています。葉裏にも薬剤がかかるよう散布しましょう。

イ　白い成虫が目につく高さを飛んでいて気が付くことが多いですが、寄生は下葉から始まります。かがんで下葉を返し右のような幼虫・サナギが見つかった場合は、すぐに防除を実施しましょう。

ウ　同系統薬剤の連用は避けましょう。

●トマト　コナジラミ類 ヨ　**マルハナ影響日数に注意※下記に記載**

薬剤系統	IRAC コード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
マクロライド系	6	アファーム乳剤	2000	収穫前日	5 回以内
		アグリメック	500～1000		3 回以内
ネオニコチノイド系	4A	ベストガード水溶剤	1000～2000		3 回以内
スピノサド系	5	ディアナSC	2500		2 回以内
ジアミド系	28	ベネビアOD※1	2000		3 回以内
その他①	9B	コルト顆粒水和剤	4000		3 回以内
その他③	4C	トランスフォームフロアブル	1000～2000		2 回以内
その他④	30	グレーシア乳剤	2000		2 回以内

※1 薬害回避のためアミスターなどの QoI 剤との混用、隣接散布不可

〈マルハナ影響日数〉

アファーム乳剤：２日
アグリメック：７～１４日
ベストガード水溶剤：１０日以上
ディアナ SC：１～３日
ベネビア OD：１日
コルト顆粒水和剤：３～７日
トランスフォームフロアブル：２～５日
グレーシア乳剤：１日

農作業安全 指切断注意！緊急時はエンジン停止！ 食の安全安心 農薬の調合順序①展着剤②乳剤③水和剤・ＦＬの順。

※　本資料の無断使用・複写・転載を禁じます　JA全農ちば

（２）葉かび病・すすかび病

感染から発病まで１４日以上かかり、下葉から徐々に発生するので、現在発病している葉の数段上まで感染している恐れがあります。予防剤は主に感染前でないと効果を発揮できないので、すでに発生が見られる場合は治療剤を加えた防除ローテーションを行いましょう。

○トマト　葉かび病・すすかび病

対象病害	FRACｺｰﾄﾞ	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
葉かび・すすかび	M7	ベルクートフロアブル	2000～4000 倍	収穫前日	3 回以内	予防
	7	アフェットフロアブル	2000 倍	収穫前日	3 回以内	予防
	3	トリフミン水和剤	3000 倍	収穫前日	5 回以内	予防・治療
	11	ファンタジスタ顆粒水和剤	2000～3000 倍	収穫前日	3 回以内	予防･治療
		アミスター20 フロアブル	2000 倍	収穫前日	4 回以内	予防･治療
	7+11	シグナム WDG	2000 倍	収穫前日	2 回以内	予防･治療

3. ネギ（ネギｱｻﾞﾐｳﾏ・さび病・黒斑病・べと病）

（１）ネギアザミウマ

８月の高温乾燥にともなうネギアザミウマが多発生圃場では、ローテーション散布による防除を心がけましょう。日中は葉上にいますが、夕方・夜間は株元の葉の隙間に潜ります。温度により変動しますが、卵～成虫までは約 10～14 日程度で、生育が早く抵抗性が発達しやすいので注意しましょう。

○ネギ　アザミウマ　防除薬剤

対象害虫	薬剤系統・IRAC	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
アザミウマ類	ﾈｵﾆｺﾁﾉｲﾄﾞ系(4A)	ベストガード水溶剤	1000～2000 倍	収穫前日	3 回以内
	スピノシン系(5)	ディアナ SC	2500～5000 倍	収穫前日	2 回以内
	ジアミド系(28)	ベネビアOD	2000 倍	収穫前日	3 回以内
	新規(-)	ファインセーブフロアブル	1000～2000 倍	収穫 3 日前	2 回以内
	ﾈﾗｲｽﾄｷｼﾝ(14)	リーフガード顆粒水和剤	1500 倍	収穫 7 日前	2 回以内

※ネギは野菜類の中でも特に農薬が付着しにくい作物です。展着剤を加用しましょう

（２）黒斑病・さび病・べと病

病害は多湿の条件を好むので、長い降雨の前後には防除が必要です。また夜間にもや・霧が発生すると同じく多発の原因となります。降雨前には予防効果、降雨後は治療効果を持つ剤を使用しましょう。

※　本資料の無断使用･複写･転載を禁じます　JA全農ちば

ア　さび病

一度発生してしまうと長期間発生が続きます。感染から発病までの期間が長く（14 日程度)、一度発生してからでは防除が難しい病害です。葉にオレンジ色の斑点が生じるので早めに発生確認を行いましょう。

イ　黒斑病

葉身に輪紋状の病斑が発生します。台風・降雨のほか、樹勢が低下しても発生しやすいため、肥料切れ等にも注意しましょう

ウ　べと病

葉身が黄色くぼやけ、灰暗色～茶褐色のカビがみられます。やがて被害部から葉が折れてしまいます。水により蔓延するので降雨、モヤ、霧の後に発生します。

○ネギ　べと病・さび病・黒斑

対象病害	FRAC ｺｰﾄﾞ	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
べと病	40+M5	プロポーズ顆粒水和剤	1000 倍	収穫 14 日前	3 回以内	予防･治療
	4+M3	リドミルゴールドＭＺ	1000 倍	収穫 30 日前	3 回以内	予防･治療
黒斑病	2	ロブラール水和剤	1000～1500 倍	収穫 14 日前	3 回以内	予防・治療
黒斑点・さび病※	M7	ベルクート水和剤	2000 倍	収穫 30 日前	3 回以内	予防
	3	オンリーワンフロアブル	1000 倍	収穫 14 日前	3 回以内	予防・治療
	11	アミスター20 フロアブル	2000 倍	収穫 3 日前	4 回以内	予防･治療

※アミスターはべと病も含む

4. キャベツ（菌核病）

菌核病は１０月ごろに葉裏に白いカビを生じ、それが徐々に茎・結球部へ広がり、やがて春先に被害が見られます。この時期に予防を行うことが重要です。散布時は葉裏（株元）付近へも十分にかかるようにしましょう。

○キャベツ　菌核病　防除薬剤

対象病害	FRAC ｺｰﾄﾞ	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
菌核病	12	セイビアーフロアブル 20	1000 倍	収穫 3 日前	3 回以内	予防
	2	ロブラール水和剤	1000 倍	収穫 7 日前	4 回以内	予防・治療
	11	ファンタジスタ顆粒水和剤	2000～3000 倍	収穫 3 日前	3 回以内	予防・治療

作成：名雪

※　本資料の無断使用･複写･転載を禁じます　JA全農ちば

営農情報

令和2年１０月

果樹（梨）　病害虫防除情報

ＪＡ全農ちば
営農支援部

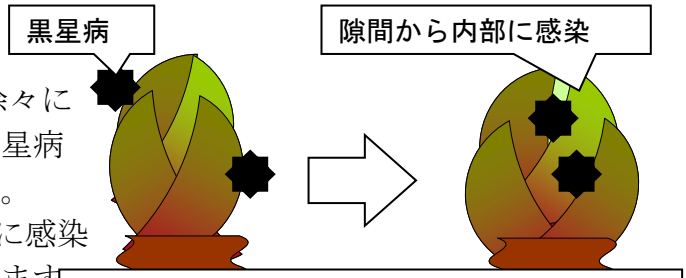
１　はじめに

今年度は７月に降雨が多かったため、収穫時期にかけて被害が見られた園もありましたが、全県的には被害は少ない結果となりました。黒星病・炭そ病などは落葉や芽に残り来年の発生源となりますので、秋防除を実施して備えましょう。

（１）秋防除の目的

花芽は９月～12 月上旬にかけて、枝の上方から徐々にりん片がゆるみます。降雨があると、葉に残った黒星病菌が雨と共に枝をつたい、ゆるんだ芽に侵入します。

ゆるみがピークとなる 10 月中旬～11 月中旬は特に感染しやすい時期となるため、薬剤を散布し感染を防ぎます。

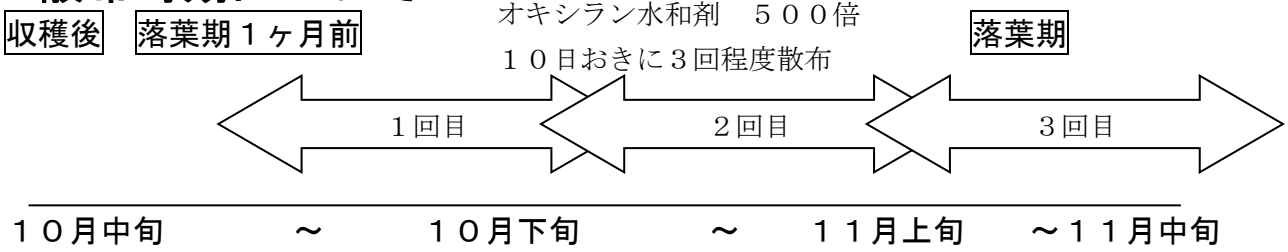


りん片がゆるみ内部組織が露出し、黒星病菌に感染しやすくなります。

（２）秋防除のポイント

①落葉期１ヶ月前～落葉期（10 月中～11 月上旬）に 10 日間隔で 2～3 回、オキシラン水和剤 500 倍（収穫 3 日前、9 回以内）を散布して、りん片への黒星病菌の感染を防止しましょう。
②散布量は 300Ｌ／10ａを目安に徒長枝に薬液が十分かかるようにして下さい。
※ 展着剤アビオンＥ（500～1000 倍）を加用すると耐雨性を高める効果があります。
※ 落葉期の目安は全体の８割が落ちるまでです。
※

散布時期について



③台風による落葉について

今後台風より被害が生じ落葉が進んだ場合について、感染源となる葉が減少するため黒星病感染のリスクも下がり、秋防除の期間が短くなることが考えられます。ただし、早期落葉には次年度の貯蔵用分が減ってしまうなど今後の樹勢にも影響します。また枝が損傷した場合はトップジンMペースト塗布などで対策を取りましょう。

（３）落葉処理　落葉は黒星病の伝染源です！園周辺の落葉も処理しましょう！

落葉を集めて焼却するか土中に埋めます（胞子の飛散を防止）。ただし、炭そ病は土中に埋めても対策できないので、確実に持ち出す必要があります。

園の外周とネット下部にも落葉が溜まっていますので熊手等で集めて処分しましょう。

作成：名雪

農作業安全 指切断注意！緊急時はエンジン停止！ 食の安全安心 農薬の調合順序①展着剤②乳剤③水和剤・ＦＬの順。

※　本資料の無断使用･複写･転載を禁じます　JA全農ちば

営農情報

令和2年１０月

安全な農作物生産の取り組みについて
☆農薬散布機は洗浄しましょう☆

ＪＡ全農ちば
営農支援部

１．農薬散布機の洗浄を徹底しましょう！

日本 GAP 協会調べ（2006 年１月～2015 年 12 月、報道資料及び公表された違反事例）によると、農薬残留基準超過の原因は第１位　適用外使用（作物登録無し）、第２位　飛散（ドリフト）、第３位　使用基準違反（使用時期、使用回数、使用方法）、第４位　農薬散布機、タンク及びホースの洗浄不足、不洗浄です。

洗浄不足のストレーナー例

2. なぜ洗浄しないといけないの？

一般的に農薬散布機は複数の作物に使用されます。農薬散布後の洗浄が甘いと機具内に微量の農薬が残ってしまい、次回別の作物に農薬を散布した際に、予期せず適用のない作物にかかってしてしまう恐れがあります。

もし前回の農薬が散布した作物に適用がないと、農薬取締法違反になりますし、また残留農薬が基準値を超過した場合は、食品衛生法違反にもなります。

最悪の場合、農産物の出荷停止・回収などにつながりますので散布機の洗浄は徹底しましょう！

３．農薬散布機の洗浄の仕方

タンク内の洗浄
残液を洗い流す！

ストレーナーの洗浄
目詰まりがないか確認！

ホース内は清水（20L 以上）
３回流す

背負い式動噴も同様！

タンク内の洗浄

フィルターの洗浄

ホース内の洗浄

農薬散布後の洗浄を徹底しましょう！！

作成：田代・名雪

農作業安全 指切断注意！緊急時はエンジン停止！ 食の安全安心 農薬の調合順序①展着剤②乳剤③水和剤・ＦＬの順。

※　本資料の無断使用・複写・転載を禁じます　JA全農ちば